

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立弥生小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) ①授業改善 ②つまずき解消 ③家庭学習と授業をつなぐ ④補充学習	①学力向上担当者・各担任 ②各担任 ③学力向上担当者・各担任 ④担任・担任外・学習支援員	①全国学力・岡山県学力調査の問題分析と課題を全教職員で共通理解し、授業改善を目指す。 ②小テスト・フラッシュカードなどで定着度を確保する。 ③各クラスの教室前に、お手本ノートを掲示。自主学習の推奨。週末の宿題に、プリント1枚出す。 ④補充学習	①7月、夏休みの校内研修 ②年間を通して ③2学期から ④10月から6回	①全職員でつまずき傾向と対策を考える。問題の解き直し、学習規律の徹底。 ②授業中、休み時間、放課後などに、個別指導を行う。 ③模範となるノートを掲示し、高橋を図る。 ④3～5年に週末の宿題を出し、月曜日の朝学習で解答・解説を行う。 ⑤木曜6時間目(2学期6回)に、苦手な領域の問題に取り組み、解答・解説まで行う。	国語・算数の数値1ポイントアップ
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	①各担任 ②運営委員会(児童会) ③生徒指導担当	①情報モラルの指導 ②弥生小メディアコントロールチェックカードの取り組み ③チャレンジハッピーデーの取り組み	①年間を通して ②来番ごと ③5月・11月	①学級指導をしたり、学級懇談などで話題にしたりして、学校と保護者間の連携を目指す。 ②弥生メディア4か条を意識し、家庭での啓発を図る。 ③1週間チャレンジハッピーデーに取り組み、家庭と連携する。	スマートフォンやゲームなどの使用時間を2時間以内にする90%

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語の正答率は、県平均・全国平均を上回った。 ○国語は、話すこと・聞くことの領域(本校76.3%、県71.9%)では正答率が高いが、書くこと・読むことに課題がある。 ○算数の正答率は、県平均と同程度、全国平均を下回った。 ○算数は、加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題(本校54.2%、県57.1%)が低いが、記述式問題(本校48.8%、県45.6%)は上回った。 ○国語・算数の書く問題では、最後まで書こうと努力した児童が81%だった。 <p>県</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5年の算数は、標準スコアが前年度を上回った。 ○3～5年は県平均を下回っており、課題が多い。 ○3～5年とも上位層、下位層も多く、二極化の傾向が見られる。 	<p>【学習状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭での学習時間1時間以上は67.9%で、県平均72.1%に比べて低い。 ○平日にスマートフォンやゲームを2時間以上使用している児童の割合が増えている。 ○「自分にはよいところがある」と思っている児童は71.4%で、全国平均81.2%を下回っている。 ○普段1時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする児童の割合は県平均より高い。 ○読書時間は平日に30分以上1時間以内している児童の割合は県平均よりも高いが、10分以上30分未満と全くない児童の割合も県平均より高い。 ○地域の行事に参加している割合が84.6%で、県平均70.7%より高い。
---	--

成果

- 毎日の授業の中でまどめ・振り返りを書いたり、補充プリントをしたりして、書く意欲が高まり、記述問題の無回答率が少なくなった。
- 少人数指導や教科担任制を行い、落ち着いた環境で学習することができてきた。
- 地域の行事に参加している児童が多い。

課題

- 既習の学習内容が十分定着していない。
- 家庭学習や読書の時間が少なく、メディア利用時間が増加傾向にある。
- 家庭学習の習慣がついている児童が多いが、予習、復習、自主学習など内容の充実が必要である。
- 児童のしたことにより、放送などでほめたり、掲示物やホームページなどで見える化したりする。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
補充学習	2学期に6回	3年以上	・3年は月6時間目、4～6年は木曜6時間目に、苦手な領域の問題に取り組み、解答・解説まで行う。					
基礎基本の徹底	3月まで	全学年	・1、2年は、げんぼプリントを出す。 ・3～5年は、週末課題にプリントを出す。月曜日の朝学習で解答・解説を行う。					
家庭学習の定着と充実	3月まで	家庭学習時間について 1～4年は学年×10+10分、5、6年は1時間以上が学校全体の70%以上できるようにする。 家庭学習提出90%	・家庭学習の手引きを配布し、児童だけでなく保護者へも協力を依頼する。 ・ノートの好事例の掲示をして、自主学習ノートを定着させる。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標のある程度達成できた(60%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上60%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

- 津山モデル学区として歩調をそろえて、PDCAを循環させる。
- 授業、宿題、小テスト、補充学習を徹底する。
- 年間2回の小中連携の日を設定し、情報交換とともに教職員のつながりを深める。

保護者・地域へ理解・協力を求めること

- 補充学習・週末課題の実施に向けて、学校だけでなく地域を協力を求める。
- 進んであいさつができる学校・地域をめざして、学校だけでなく地区懇談会でも話題に取り上げる。
- 学校支援ボランティア事業で、学習・環境・安全支援で地域人材を活用し、活動を通して地域と学校をつなぎ、学校を支援してもらい取り組む。
- 図書委員会の読書週間の取り組みなどで、読書を推奨する。